

賢人に一步近づける？ 幕末・維新の賢人 グルメ&グッズ

幕末・維新の賢人たちにちなんだグルメ&グッズが随々登場！
見て、食べて、触れて、賢人の息吹を感じてみては？

※掲載されている情報は2017年9月現在のものです。
情報、料金、時間等は変更されている場合もございますので、事前にご確認ください。



※デザインは変更になる場合があります。

専攻学部・お仕事ごとにゲットしてもよし！
受験や勉強のお守り代わりに

佐賀賢人バッジ

一枚一枚が「学部別・専攻別」の受験や勉強のお守り代わりになっている！
あなたの目標に合わせて買うもよし、12人一気に揃えるもよし。

価格：1個100円 / 販売：佐賀市観光協会 / 電話：0952-20-2200
販売所：佐賀市観光交流プラザ、佐賀市観光案内所、佐賀県産業振興会館、
佐賀城本丸歴史館、佐野常民記念館、大隈記念館、肥前通仙亭など。
※郵送も受け付けております（送料はお客様ご負担です）。

個性派揃いの8人がお待ちしています 幕末・維新 佐賀の八賢人 おもてなし隊

毎週日曜日、佐賀城本丸歴史館で一日5回の無料寸劇を週替わりの演目で上演中

佐賀の8人の賢人の業績と佐賀の歴史と誇りを笑いと涙で伝える演劇ユニット。
2012年9月より始めて観客は50,000人を突破。満足率97%と大好評です。

お問い合わせ：電話：0952-29-0088（魅力発掘プロデュース協会）



ゆっつら〜と、佐賀市

【発行・お問い合わせ先】
一般社団法人
佐賀市観光協会
www.sagabai.com

■佐賀市観光交流プラザ
営業：10:00～18:30（火曜日のみ19:00まで）
定休：土・祝日・年末年始
TEL：0952-20-2200
FAX：0952-28-5656
E-mail：info@sagabai.com

■佐賀市観光案内所（JR佐賀駅構内）
営業：8:30～18:00（土日祝17:00まで）
定休：年末年始（12/31～1/3）
TEL/FAX：0952-23-3975



佐賀市観光協会のフェイスブックページ
最新情報を随時公開しています！

佐賀市観光協会 FB 検索

※本パンフレットは観光の見地から作成したものです。
禁 無断複写（コピー）、転載



賢人にまつわるエピソード料理や デザートがぎゅぎゅっと詰まった 義祭弁当

義祭同盟参加者に鍋島直正、佐野常民を加えた
「8賢人」にゆかりのある惣菜を集めて幕の内
弁当に。人気商品なので、前日の予約が必要。

価格：1080円（お茶付）
製造・販売・お問い合わせ：林橋亭
電話：0952-23-2788
販売所：林橋亭（佐賀市中的小路3-1）
地図▶P34 中心部拡大図



たとえば大木喬任。子供の頃食卓に出ると、どんぶり
いっぱいいたらいっぱい好物の「茄子の煮物」（右上）。



赤茶 翁

島 義勇

大木 喬任

大隈 重信

佐賀の賢人 歴史散策お楽しみ帳

お城下・佐賀へようこそ！

■数々のエピソードから賢人の素顔に迫る！
■ドラマチック！人物相関図で知る幕末維新の9人

■お手軽新モデルコース12&賢人スポット57
■賢人が愛したあの味：賢人グルメ

徐 福

鍋島直正

佐野常民

江藤新平

炭富兵庫 茂安

荻 吉 神陽

鍋島種臣

相良 知安

平成30年は、 明治維新150年

1868^{SAGA}2018
肥前さが 幕末維新博覧会
佐賀さいこう博
150th ANNIVERSARY
2018 3.17^土 - 2019 1.14^月

幕末期、植民地を広げアジア進出を強める欧米列強に危機意識を持った佐賀藩主鍋島直正は、人材教育や技術研究に力を入れる等、佐賀藩を日本の最先端技術を持つ藩に押し上げていきます。佐賀藩の軍勢力と多くの優秀な人材は、明治維新时期の日本近代化に大きな役割を果たしました。



明治維新时期の歴史舞台 佐賀城 本丸歴史館

佐賀城本丸歴史館 地図▶P34 G-8

36万石の栄華を築いた雄藩・佐賀藩の拠点となった本丸御殿を、全国の宮大工の手により佐賀藩の歴史を伝える歴史館として平成16年に復元、整備されました。年間約20万人が訪れる人気施設で、中には貴重な資料が多数展示され、幕末から明治にかけ、近代日本の礎づくりに躍動した佐賀藩の歴史を詳しく知ることができます。

【営】9:30～18:00 【休】年末(12/29～12/31)、臨時休館あり【TEL】0952-41-7550
【¥】無料(募金の御協力をお願いします。)



佐賀藩の偉人たちが、科学技術の成果を絵図や模型で紹介。幕末維新时期の激動の時代、日本の近代化の礎を築いた佐賀藩の息吹を感じることができます。



平成29年、佐賀城跡前に再建された鍋島直正の像



国登録有形文化財

早稲田大学創設者

大隈重信記念館 地図▶P34 H-8

大隈重信の生誕125年を記念して昭和42年に開館。内部には大隈ゆかりの展示物が多数展示。旧宅(国指定史跡)も隣接しており、大礼服姿の銅像が迎えてくれます。

【営】9:00～17:00 【休】12/29～1/3
【TEL】0952-23-2891
【¥】大人300円 小中学生150円



大隈重信の生い立ちや功績をわかりやすく紹介。大隈重信の映像や音声、書籍の閲覧もできます。



「緋色のガウン」と称される深紅のアカデミックドレス(復元)。紙に絹布を貼り合わせた独特の生地は無数のプリーツを施してある。



鍋島家伝来資料の博物館

微古館 地図▶P34 G-8

佐賀藩主侯爵、鍋島家伝来の貴重な資料が見られる博物館。昭和2年に開館した県内初の歴史博物館で、平成9年に国の登録有形文化財となりました。2～3月の佐賀城下ひなまつりの時期には大いに賑わいます。

国登録有形文化財



収蔵品だけでなく、その建物も見所。佐賀藩主から侯爵へ、時代を彩った鍋島家の歴史が見てきます。

【営】9:30～16:00
【休】日曜・祝日・年末年始・展示準備期間
【TEL】0952-23-4200【¥】300円(小学生以下無料)



博愛に満ちたその生涯

佐野常民記念館 地図▶P33 C-5

日本赤十字社の生みの親である佐野常民の業績に関わる資料や遺品などを展示し、その偉業や人道、博愛の精神を学ぶことができる人材育成の拠点施設です。三重津海軍所跡に関する解説パネル展示や貴重な出土品も展示されています。

【営】9:00～17:00【休】月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始
【TEL】0952-34-9455【¥】大人300円、高校生以下100円



映像ホールでは180度の空間を使い、佐野常民の生涯をドラマチックに紹介

世界遺産を見る、知る、学ぶ

三重津海軍所跡 地図▶P33 C-5



幕末の欧米諸国のアジア進出に伴い、佐賀藩は海外との窓口であった長崎の警備を強化するため、いち早く洋式船を手に入れて洋式海軍を設立しました。その拠点となったのが「三重津海軍所」で、洋式海軍の訓練のほか、洋式船の建造や修理などが行われました。ここ三重津海軍所跡は、平成25年に国史跡に指定され、平成27年7月には「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成遺産として、世界文化遺産にも登録されました。



みえない世界遺産」と言われる三重津海軍所跡ですが、みえつスコープをのぞくと、CG映像を通して、当時の様子を体感することができます。



佐野常民記念館3Fには、隣接する世界文化遺産・三重津海軍所跡のインフォメーションコーナーがあり、出土品の展示、精巧な模型、実寸大のドライドック写真など、楽しく学べる施設となっています。

【明治維新関係年表】

□は佐賀にかかわる主な動き ■は全国の動向

文化11(1814)年	□鍋島直正誕生。
天保元(1830)年	□鍋島直正が、第10代佐賀藩主に就任。 □鍋島直正、長崎視察の際にオランダ商船に乗船。
天保11(1840)年	■アヘン戦争(～1842年)。東洋の宗主国「清」(現在の中国)が英国砲艦の攻撃に大敗。 □佐賀藩、長崎警備強化へ高島流砲術を導入。 □藩校「弘道館」を移転・拡張。
弘化元(1844)年	■オランダ国王が幕府に開国勧告。 □鍋島直正、派遣されたオランダ軍艦バレンバン号に乗船。
嘉永3(1850)年	□佐賀藩、築地の大銃製造方(いわゆる「築地反射炉」)で、全国に先駆けて鉄製大砲の鑄造に着手。 □佐賀藩、「文武課業法」制定。 □枝吉神陽が「(楠公)義祭同盟」を設立。
嘉永5(1852)年	□佐賀藩、築地反射炉で、鉄製大砲の鑄造に14回目で成功。 ■薩摩藩、反射炉築造を開始。 □佐賀藩、「精煉方」(理化学研究所)を設置。
嘉永6(1853)年	■米国東アジア艦隊司令長官ペリーがサスケハナ号以下4隻で浦賀に來航し、開国を要求。 ■ロシアのプチャーチンが長崎に來航し、通商を要求。 ■幕府、釜山反射炉築造を開始。 □佐賀藩、幕府から鉄製大砲50門の注文を受ける。別ラインとして、多布施に公儀御石火矢鑄立所(いわゆる「多布施反射炉」)を設置し、幕府注文大砲の製造を開始。
安政元(1854)年	■ペリーが再来。日米和親条約を締結。 □佐野常民が精煉方主任となる。
安政2(1855)年	□精煉方で、日本初の蒸気車雛型が完成。
安政3(1856)年	□島義勇が直正の命を受け、蝦夷地(現在の北海道)と樺太の調査に参加(～1857)。
安政4(1857)年	□佐賀藩、釜山反射炉の築造の技術支援のため、杉谷雅介・田代孫三郎ら11名を派遣。 ■薩摩藩、反射炉築造に成功。
安政5(1858)年	■日米通商修好条約締結。 ■安政の大獄(～1859)。幕府、尊王攘夷派を弾圧。 ■鍋島直正と親交のあり、一橋派をリードした薩摩藩主島津斉彬が没。 □佐賀藩、筑後川支流早津江川の三重津に「御船手稽古所」を開設(いわゆる「三重津海軍所」)。佐野常民、三重津海軍所の監督となる。
安政7(1860)年	■桜田門外の変。鍋島直正と親交が深かった大老井伊直弼が暗殺される。
慶応元(1865)年	□三重津海軍所で日本初の実用蒸気船「凌風丸」が完成。
慶応3(1867)年	■大政奉還。第15代将軍徳川慶喜が大政返上を天皇に上奏。 ■王政復古の大号令。明治天皇の下での新政府樹立を宣言。
明治元(1868)年	■戊辰戦争(～1869)。 □佐賀藩、アームストロング砲を携えて上野戦争に官軍側として参戦。 ■江戸を東京と改称。 □大木喬任、東京府知事に就任。 ■明治改元。
明治2(1869)年	■版籍奉還。 □鍋島直正、開拓使の初代長官となる(間もなく辞任)。島義勇、開拓使判官として北海道に赴任。 □江藤新平、佐賀藩権大参事として藩政改革に取り組む。
明治4(1871)年	□鍋島直正没。 ■鹿藩置県。
明治6(1873)年	□明治六年政変で、西郷隆盛・板垣退助らとともに、江藤新平・副島種臣下野。
明治7(1874)年	□佐賀の役。江藤新平・島義勇ら処刑。
明治10(1877)年	□西南戦争に際し、佐野常民らが「博愛社」(後の「日本赤十字社」)を創設。
明治14(1881)年	□明治十四年政変により、大隈重信下野。
明治15(1882)年	□大隈重信、立憲改進黨を結成。東京専門学校(現早稲田大学)を開校。
明治16(1883)年	□佐賀県が長崎県から分離独立。

Sagacityとは

賢人の都であった

※本文中に出て来る日付は、日本で新暦が導入される1872年（明治5年）12月以前のものは旧暦のものとなっています。
また、年齢は当時の慣習に従い、数え歳（生まれた年を1歳とし、以降元旦を迎えるごとに1歳ずつ加わる）での表記としています。

sagacity

【音節】sa-gac-i-ty
【名詞】【不可算名詞】

賢明な、利口な

[SAGACIOUS+ITY]

皆さんはご存じだろうか？

Sagacityには英語で「佐賀市」と共に、

「賢明な」「利口な」などの意味があることを。

これを単なる偶然と思う方も少なくないだろう。

しかし事実、この街の過去には多くの賢人たちの姿があり、

今でも、いたる所にその軌跡を見て取ることができる。

本誌では、その中でも、特に多くの偉業を後世に残した

12の賢人にスポットを当て、その生きざまや、人間的魅力に迫る。

自らを貫き、時代を熱く走り抜けた12の人生は、

混迷する現代に、多くの事を教えてくれることだろう。

皆さんもお気に入りの一人をSAGACITYみてはいかがだろうか？

P5

徐福

不老不死を求めて
【紀元前3世紀頃】

P7

成富兵庫茂安

戦国の名將から治水家へ
【一五六〇～一六四四】

P9

煎茶道の祖
高遊外売茶翁

【一六七〇～一七六三】

P25

江藤新平

近代司法の父
【一八三四～一八七四】

P27

相良知安

近代医学の功績者
【一八三六～一九〇六】

P15

枝吉神陽

佐賀の「吉田松陰」
【一八三二～一八六二】

P21

副島種臣

正義の外務卿
【一八二八～一九〇五】

P23

大木喬任

東京遷都を進言
【一八三二～一九一九】

P17

島義勇

北海道開拓の父
【一八二五～一八七四】

P29

大隈重信

二度の総理大臣
【一八三八～一九三三】

P19

佐野常民

日本赤十字創設者
【一八三三～一九〇二】

P13

鍋島直正

幕末屈指の名君
【一八一四～一八七二】

徐福

じよふく

不老不死を求めた浪漫の旅人。 平原広沢を得、王となり帰らず。



Jo-Fuku

- 《人物像》
- 博学で神秘性を持つ研究者
 - 冒険者であり開拓者
 - トップに取り入るしたたかさ

佐賀に伝わる古代ミステリー

今から約2200年前、史上初の中国統一を果たし、あらゆる権力と富を手にした秦の始皇帝。絶対の権力者の彼でさえまならなかったのが、「老い」と「死」だった。徐福はその始皇帝に仕える方士で、呪術、祈禱、医薬、占星術、天文学に通じた学者。実は始皇帝に滅ぼされた斉の国の皇太子だったが、その頭脳を見込まれて仕えていた。

司馬遷が書いた中国の歴史書「史記」によると、徐福は始皇帝に「東方の三神山に不老不死の霊薬がある」と進言し、始皇帝の命を受け、3,000人の童男童女と多くの技術者を従え、五穀の種を持って、東方に船出し、「平原広沢(広い平野と湿地)」を得て、王となり戻らなかったと記されている。

この徐福の渡来伝説は日本各地に伝えられているが、特に佐賀には数多くの伝承が残されており、昔から「徐福さん」と呼ばれ親しまれている。それが事実か、単なる伝説なのか、確証を得るものはないが、現代の人々に遅かな古代ロマンを与えてくれることは確かだ。

【概略年表】		数え年
BC.278	縄文時代	1 誕生
BC.259		20 始皇帝誕生
BC.221		58 齊の国が滅亡し、秦の始皇帝が即位
BC.219		60 不老不死の仙薬を求め、蓬萊・方丈・瀛洲の三神山に向けて旅立つも、見つからず
BC.212	〃	67 始皇帝に「蓬萊に行けば仙薬が手に入るが大蛟に邪魔されたどり着けない」と報告
BC.210		69 童男童女3,000人と技術者、五穀や数々の道具を船に乘せて大船団で再び出航
	弥生時代	始皇帝崩御
BC.208		71 徐福死去。2月8日のことだったとされる

※徐福の生没年などは諸説あり



▲吉野ヶ里遺跡(神埼市・吉野ヶ里町)。その成り立ちには徐福も関わったと考えられる

 あなたにとって徐福とは？

私たちの故郷の開拓者

NPO法人佐賀県徐福会 理事長
澤野 隆 さん



徐福は弥生時代前期、100人の技術者と3,000人の男女を連れて渡来しました。ここから日本では、稲作を中心とした弥生文化が始まったと推測されます。彼は広大な佐賀平野に水田を広げ、工業、医学、天文学等、様々な当時のハイテク技術を持ち込みました。その活動が私たちの住む故郷佐賀、さらに現代日本の基礎を築いたかと思うと、果てしないロマンを感じます。私たちは佐賀県徐福会の活動を通じて、そんな徐福伝説を皆さんにお伝えできれば嬉しいです。

 徐福を知る入門の一冊

「佐賀に息づく徐福」

先代の佐賀県徐福会会長である村岡史麻執筆の本で、佐賀と徐福の繋がりについて詳しく解説されている。徐福長寿館などで販売中。
村岡史麻 著／500円／全60ページ
お問い合わせは佐賀県徐福会事務局まで。
TEL 0952-28-6260





▲不老不死の仙薬をついに発見したのは金立山の山中だったと伝えられる。中国の運雲港市から送られた徐福像で、金立山を背景に立つ表情もどこことなく誇らしげ



徐福が追い求めたフロフキは不老不死の薬？

仙薬を探す徐福が金立(きんりゅう)山で出会ったのは謎の仙人。徐福が仙薬の場所を訪ねると、仙人はゆがいている釜の中を見せ、霧のように消えてしまった。その釜の中にあったものこそ、徐福が求めていた仙薬で、「フロフキ」という薬草だった。フロフキは、今も金立山に自生しており、土地の人々は煎じて飲めば腹痛や頭痛に効果があると言う。



▲自生するフロフキ。徐福長寿館で実物を見ることができる。同じ科のサイジンは実際に漢方薬として利用されている



悲劇のもととは聞き間違いお辰との悲しい恋の物語

お辰は金立の地で徐福と恋仲になった娘。徐福が一時この地を離れる時、「5年後に戻る」との伝言があやまって「50年後」と伝わってしまったため、お辰は悲しみのあまり亡くなってしまふ。これは中国、日本を含めて唯一伝わる徐福の悲しい恋の物語でもある。



▲お辰観音堂の「おたつ御守」。恋愛成就にご利益あり

徐福足跡探訪コース【約2時間】(移動約65分＋観光散策約55分)

モデルコース 上陸の地から、仙薬を見つけたという金立山までの道程をたどる

 車で約5分 徐福上陸地(浮盃) 地図▶P33 C-5 徐福上陸の伝説の地で、現在は神社として拝殿や掲示板等が整備されている。ここから徐福巡りの旅をスタート！ ☎佐賀市諸富町大字寺井津15隣	 車で約40分 新北(にきた)神社 地図▶P33 C-5 境内のビャクシンの徐福が上陸の記念に、中国から持ってきた種を植えたものと伝えられ、貴祿ある姿を拝むことができる。 ☎佐賀市諸富町大字為重1073	 車で約10分 お辰観音 地図▶P33 B-3 徐福との悲恋の末に亡くなったお辰を偲ぶ観音像。お辰が「自分のようににはさせない」と、縁を結んでくれる。 ☎佐賀市金立町千布3055-3付近	 金立ICの駐車場からも入館可能 車で約10分 徐福長寿館 地図▶P33 C-3 日本唯一の徐福の公的資料館。佐賀の徐福伝説発信の中心施設で、徐福や薬草に関する様々な情報はここで得られる。 ☎佐賀市金立町大字金立1197-166 開 9:00～17:00 休 月曜 祝日の翌日 年末年始 料 大人300円 小中学生150円 ☎0952-98-0696	 車で約10分 金立神社(上宮) 地図▶P33 B-2 金立山頂上にある、徐福を祀る神社。天皇も参拝した由緒ある神社で、その徳を感じつつ、徐福が開拓した佐賀平野を見渡そう。 ☎佐賀市金立町大字金立3415 ☎0952-98-1409
---	---	---	--	--



▲2011年11月、徐福が日本へ出航したという、中国の慈溪市から贈られた新たな徐福像。立つのは上陸地近くの「橋の駅」(旧もろどみ一番館)付近で、後ろに見えるのは筑後川昇開橋。実は左の写真の金立山前の徐福像とは視線が向かい合っており、片や上陸地、片や目的の仙薬発見の地で、互いに日本で歩んだ旅路を見守っている



▲「お下り神事」では金立神社から徐福上陸地まで、徐福が辿った約20kmの道のりを逆にとって歩く。写真は前回の昭和55年4月に行われた例大祭の様子(「佐賀に息づく徐福」所載)



チャンスは一生に二度50年に一度の幻の行列

徐福を祀る金立神社には、何と50年に1度開催される例大祭がある。また、神輿を担いで、徐福が上陸地から金立山まで辿った道を逆にする「お下り神事」も開催される。次の開催は2030年。一生に一度か二度の貴重な機会だ。

☎金立神社☎0952-98-1409



伝説は本当だった！徐福の故郷がついに発見！

佐賀ではもう何百年も前から、数々の徐福文化が脈々と受け継がれているが、本場中国では徐福は長い間伝説上の人物だった。しかし1981年、江蘇省において徐福が住んでいたと伝わる徐阜村(徐福村)が発見され、その存在が認められた。近年、中国では徐福ドラマが企画されるなど、にわかに徐福ブームが巻き起こっている。



▲「金立神社画図縁起」(金立神社蔵 佐賀県立博物館寄託)画面は絹布3枚継ぎで、上段は金立神社上宮、中段は金立神社下宮、下段は徐福上陸の場となっている。かつて天皇や鍋島家も参拝したという由緒ある金立神社の姿を伝える貴重な資料



《徐福ゆかりの温泉に浸каろう!》

古湯温泉

地図▶P33 A-2

金立山の西にある古湯温泉は湯の神のお告げに導かれて、徐福が見つけたと伝えられている。泉質はアルカリ性単純温泉で美人の湯「める湯」として評判が高い。徐福巡りの旅の宿に最適。

☎佐賀市富士支所☎0952-58-2111



はみだし情報 国鉄佐賀線の線路跡を利用して作られた徐福サイクルロード。春は桜の名所で、爽やかな並木道が一直線に続き、徐福が金立山へ向けて歩いた道を追体験できる

成富兵庫茂安

なりどみひょうごしげやす



Naridomi Shigeyasu

民のため、時代を越えた「いい仕事」

武将からグラウンドデザイナーへ。

【人物像】
●忠義に厚い武士魂
●臨機応変な知略家
●上司からも部下からも慕われる人格者

武将から治水家へ鮮やかな転身

肥前国を治めていた龍造寺氏の家臣である成富信種の次男として生まれる。11歳で主君の龍造寺隆信の小姓として仕えるようになり、17歳で初陣。以降、幾多の戦いで武功を上げ、豊臣秀吉の朝鮮出兵では鍋島直茂から全権を任されて活躍。また、その知略ぶりから多くの逸話を残し、佐賀藩に古くから伝わる武士道書「葉隠」にも多くのエピソードが残されている。

戦国の世が終わると藩内の禄高を上げるため、幾多の水利施設の整備を行う。その実施前には実際に模型を作って緻密な実験をしたと言われる。工事には地元の農民を作業に当たさせたが、農繁期には作業をさせないなど、その気遣いぶりで領民から親しまれた。

茂安が各地に作った水利システムは複雑に組み合わせっており、どこかで不具合が生じるとシステム全体に影響が出るため、それに手を掛けることはタブーとされ、江戸期を通じて領内では水争いや百姓一揆がほとんど起こらなかった。

茂安自身は1634年、75歳でその生涯を閉じるが、彼の水利システムは今でも現役で、佐賀平野の稲田を潤し、日本有数の穀倉地帯たらしめている。

【概略年表】 成富		
1560	永禄3年	1 誕生。幼名千代法師丸、のちに新九郎と名乗る
1570	元亀元年	11 今山の陣。隆信の小姓として仕えるようになる
1576	天正4年	17 藤津郡横造城攻めに従軍し初陣を飾る
1580	天正8年	21 筑後生駒城攻め。十の武功を上げ十右衛門賢種と改名
1589	天正17年	30 天草騒動平定に加勢。加藤清正と出会う
1592	文禄元年	33 文禄の役。龍造寺家の名代、鍋島直茂のもと朝鮮に出兵
1597	慶長2年	38 慶長の役。鍋島勝茂(直茂の子)を助け朝鮮に出兵
1600	慶長5年	41 関ヶ原の戦い。鍋島軍は西軍。伏見城などを攻める
1615	元和元年	56 この頃から各所の水利工事を始める 筑後川の干栗の土居(みやき町) 脊振山の蛤水道(吉野ヶ里町) 嘉瀬川の石井樋(いしいび) (佐賀市大和町) …等
1634	寛永11年	75 9月18日、死去



◀この佐賀平野の恵みも茂安の幾多の水利工事の賜物。写真上中央から左下に延びる川が、佐賀城下に水を供給した多布施川(画像提供:筑後川河川事務所)

あなたにとって成富兵庫茂安とは？

何事にも一所懸命な武人

さが水ものがたり館 初代館長 金子 信二 さん

佐賀では水利の神様として有名な成富兵庫茂安ですが、実は武人としても多くの武功を挙げた人なんです。戦国から平和な世の中になり、実際に水利事業の任についたのは50歳を過ぎた頃。時代に応じて主君のため、藩のため、今、自分のなすべきことに一所懸命に取り組んだ姿に魅かれますね。そのため多くの武将や部下からも慕われ、あの加藤清正からも一万石で誘われていましたが、「二君に仕えず」と主君への忠義を貫いた義の人でもあります。

成富兵庫を知る入門の一冊

「成富兵庫茂安 佐賀藩の初期を支えた男」

基礎史料である「成富家譜」からその生涯を、江戸後期に編纂された「疏導要書」から治水の功績を読み解き、様々なエピソードを紹介。田中耕作 著／佐賀新聞社 刊／1575円(税込)



▲「錆色塗紺糸威仏二枚胸具足」(さびいろぬりこんいとあどしほとけふたまいどうぐそく) 天草の戦いにおいて加藤清正に加勢したこと、清正より授けられた甲冑(鍋島報効会蔵)

「梨子地願文詩給鑑」▶(なししあうぎもんほまきえあひみ) 茂安愛用と伝わる馬のあぶみ(鍋島報効会蔵)

初陣はフライング 父が救った命

若い頃の茂安は血気盛ん。11歳の時に若すぎると初陣の許可が出なかったため、独断で戦場で物見を行い、それが龍造寺隆信の目に留まり、以来小姓として使えるようになる。さらに18歳の時に博打にハマり父親の粉倉まで失ってしまう。いっそ殺してしまえという親族に対し、父信種は一年だけ待ってくれと茂安を徹底的に指導。その心に打たれた茂安は見事更生を果たすのだった。

成富兵庫茂安足跡探訪コース【約2時間】(移動約55分+観光散策約65分)

モデルコース 生誕地から茂安三大事業の一つ、石井樋(いしいび)を経由し、墓地までその功績を辿る

成富兵庫茂安公誕生之地
地図▶P33 B-3
佐賀市鍋島町増田の土手沿いに誕生400年を記念して建てられた顕彰の碑。
⑤ 佐賀市鍋島町大字鍋島1397付近

石井樋公園・さが水ものがたり館
地図▶P33 B-3
石井樋は茂安考案の大型取水施設で、彼の仕事を今に見ることが出来る貴重な遺構。関連の資料館も併設で、詳しく学べる。
⑤ 佐賀市大和町大字尼寺3247 開 9:30~17:00 休 月曜(祝日の場合は翌日) 12/29~1/3 ⑥ 無料 ⑦ 0952-62-1277

築山公園
地図▶P33 B-3
茂安は築山の南麓に住んでおり、築山頂上には、茂安夫妻等の石碑や追腹殉死者の墓石がある。
⑤ 佐賀市大和町大字尼寺1363付近

葉隠発祥の地
地図▶P33 B-3
武士のあるべき姿を様々な事例で記した「葉隠」。その口伝と執筆が行われた「朝陽軒」があった。林の中に碑が立つ。
⑤ 佐賀市金立町大字金立1557付近

本行寺
地図▶P34 F-8
茂安の遺言により、遺体は築山、遺髪は菩提寺である本行寺に埋葬された。昭和15年の墓地改葬の際、遺骨も本行寺に改葬されている。
⑤ 佐賀市西田代1-4-6 ⑦ 0952-24-1813



▲嘉瀬川から佐賀城下へ水を取込む巨大取水施設「石井樋」その完成により、洪水被害は減り、佐賀城下の水不足は解消された(画像提供:筑後川河川事務所)

戦国一の策士 普請場の陣取り合戦

大阪での普請(工事)を命じられた時のこと。作業するため必要な場所は既に他藩が押さえていた。そこで、夜中にその脇の川の中に杭を打ち込み、翌日に「3日前に杭を打って場所を確保しておいたが、水が増えて見えなくなってるようだ」とその杭を引き抜き、その場所を横取りしてしまったんだとか。「茂安は戦国一の曲者(くせもの)」との異名をさつした。

「眠るならそばに」。養子に 来た藩主の息子に慕われる

茂安は藩主・鍋島勝茂から、その四男の直弘を養子として預けられた。これは成富家の後継ぎとしてではなく、武士として立派に育てて欲しいという思いから。藩主の子供を預けられることから、いかに茂安が信頼された人物だったかが分かる。直弘は後に鍋島家に復籍し白石鍋島家を興すが、その墓は直弘の遺言により、茂安と同じ本行寺に建てられている。父子だった期間は短いものの、茂安と直弘の深い情愛が感じられる。

▲「疏導要書」(そどうようしょ) 佐賀藩の南部長恒によって1834年に書かれたもので、藩内河川の水利状況や成富兵庫茂安の業績が細かく記されている。写真は石井樋の見取図 佐賀県立図書館で複写本の閲覧可能(鍋島報効会蔵 佐賀県立図書館寄託)

ものしり坊主を取り込み 政略のたすけにする

茂安が鍋島勝茂と共に江戸城に登城した際、湯をくれただけの坊主に茂安は独断で何と絹の反物十巻を送った。その後のアプローチもあり、その坊主は勝茂らの湯茶の接待など、厚く世話をするようになる。結果、坊主から城内の様々な情報が入るようになり、何事も都合よく運ぶようになったとか。



▲茂安の数々の逸話も収録された「葉隠」の写本 佐賀県立図書館で複写本の閲覧可能(鍋島報効会蔵 佐賀県立図書館寄託)

《ちょっと足を延ばして》

蛤水道 地図▶P33 D-1

夏場の田畑の水不足を解消するため蛤岳につくられた水路で、今も往時の姿を残す。その感謝の意を伝えるため、毎年5月に「兵庫まつり」が開催されている。

⑤ 神埼郡吉野ヶ里町

▲手前右の溝は必要以上の水を仕分けるための「のこし」

はみだし情報 佐賀県内には成富兵庫茂安の偉業をたたえ、佐賀市兵庫町や三養基郡北茂安町(現みやき町)など、その名前が地名になって残っている



▲肥前通仙亭展示の狩野秀頼の「楓図」。紅葉を楽しむ武士、僧侶、婦女子等を描いた風俗画の一部で、画面の左の人物が売茶翁と思われる



▲売茶翁が伊藤若冲に送った「丹青活手の妙、神に通ず」の一行書 (足利義満600年忌記念「若冲展」図録より)



▲売茶翁像(比喜多宇隆筆／部分)(佐賀県立博物館蔵)

本名？あだ名？ 売茶翁の名前

売茶翁というのは実は名前ではなく、お茶を売る翁(おきな)という意味のあだ名のようなもの。本名ではないが、本人も時にはこの名前を記す事もあった。本名は柴山元昭、幼名は菊泉。僧侶としての名前は月海で、晩年は高遊外と名乗っていた。ちなみに高が姓で、遊外が名前。

難解だけど面白い 売茶翁のユーモア

「茶銭は黄金百鎰(いつ)より半文銭までくれしだい。ただにて飲むも勝手なり。ただよりほかはまけ申さず」(訳:お茶の代金は小判二千両から半文までいくらでも結構。ただで飲んでも結構。ただより安くはできません)これは売茶翁が煎茶を売る時に掲げた言葉。ユーモアあふれる言い回しに、ぜひ本人に会ってみてみる。

▶肥前通仙亭内にもこの言葉が掲げられている



売茶翁足跡探訪コース【約3時間】(移動約65分+観光散策約115分)

モデルコース

日本茶栽培の発祥地から売茶翁ゆかりの地を巡り、お茶を親しみ、禅を体験する



霊仙寺跡の茶園

地図▶P33 D-2

日本茶栽培発祥の地。1192年栄西禅師が中国から持ち帰ったお茶を当時九州一の山岳仏教の聖地だった脊振山腹で栽培した。

〔住〕神埼郡吉野ヶ里町松隈字坂本付近
〔岡〕吉野ヶ里町東脊振庁舎
〔商工観光課〕☎0952-37-0350



龍津寺

地図▶P33 C-4

売茶翁が幼い時出家したお寺。現在はお堂が焼失し小さな庵を残すのみ。売茶翁の顕彰碑や柴山家のお墓が建っている。

〔住〕佐賀市巨勢町東巨勢
〔岡〕佛心寺
☎0952-24-8528



肥前通仙亭

地図▶P34 H-7

売茶翁に関する資料の展示や情報発信の拠点。直筆の書など、ゆかりの品も充実。もちろん美味しい煎茶も頂ける。

〔住〕佐賀市松原4-6-18
〔開〕9:00～17:00
〔休〕月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始
〔料〕見学無料
〔岡〕☎0952-65-2152



佛心寺

地図▶P34 G-7

「刺繍地藏菩薩座像」が安置されている。売茶翁ともゆかりが深く、住職からも楽しい話が聞ける。

〔住〕佐賀市大財4-3-14
〔岡〕☎0952-24-8528



大興寺

地図▶P34 G-6

売茶翁ゆかりの黄檗宗のお寺で、「禅」の体験や勉強会も定期的開催されている。ご希望の方はお問い合わせを。

〔住〕佐賀市神野東3-10-3
〔岡〕☎0952-33-1713

煎茶で真理をわかち合った風流人

煎茶道の祖、高遊外売茶翁は延宝3年、佐賀蓮池支藩の藩医の三男として誕生。11歳で龍津寺に出家し僧名は月海。22歳で修行不足を恥じ江戸、仙台等各地へ出かけた。煎茶は長崎の中国僧から習ったとの説もある。また、隠元禅師が京都宇治に開いた、黄檗山(おうばくさん)萬福寺でも修業、中国伝来の文化に触れ、視野を広げた。晩年、龍津寺を弟弟子に託し再上洛。洛中に「通仙亭」という庵を構え、茶を売りながら禅や人の生き方を説いた。その姿に人々は親しみを込めて「売茶翁」と呼んだ。

通仙亭には文人墨客が集まり「売茶翁に衣服接待されなければ一流の文人とは言えない」といわれ、伊藤若冲や池大雅などが集まり、若冲は売茶翁の肖像画も多数書き残している。漢文にも堪能で、漢詩や和歌を残し、書家としても超一級の人物であった。「煎茶道の祖」と言われるのは、中国伝来の煎茶に精神的な方向性を示したこと。高僧でありながらその位を捨て、布施も取らずの茶業は、当時の体制や宗教界のあり方への反発で、真実の禅を実践したものだといわれている。

【概略年表】

1675	延宝3年	1	5月16日、柴山李之進常名の三男として誕生。幼名菊泉
1686	貞享3年	12	佐賀市の龍津寺に出家、僧名月海
1687	貞享4年	13	黄檗山萬福寺第4代独湛禅師に面会を許される
1688	元禄元年	14	龍津寺に帰り学問・修行に励む
1696	元禄9年	22	体調を崩し、江戸・京都を経て仙台の萬寿寺月耕禅師のもとで修行
1707	宝永4年	33	長崎で煎茶の知識を吸収
1731	享保16年	57	龍津寺を法弟大潮にゆずり、志を果たすため上洛
1735	享保20年	61	東山に通仙亭を構え、禅を説きながら売茶の業を始める
1742	寛保2年	68	高遊外に改名
1763	宝暦13年	89	7月16日、京都で寂入



▲佐賀市の観光文化施設、肥前通仙亭では、売茶翁ゆかりの資料や茶道具を展示



▲肥前通仙亭の「煎茶体験セット」(500円)。他に石臼で抹茶をひいて飲めるサービスもある



あなたにとって売茶翁とは？

18世紀の京都文化に 風穴を開けた革命家

NPO法人高遊外売茶翁顕彰会 代表

川本 喜美子 さん



売茶翁は煎茶道の祖と言われていますが、本人が名を残すことにこだわらず、悠々と生きられるはずの佐賀の地を出、僧侶の位も捨て、お布施も取らず、当時の文化の中心である京都でお茶を振る舞い、自分の信条を説いて回りました。厳しい身分制度の時代、決して権力、大勢には準じず、どこにも媚びることはなかったその生きざまは、今の私たちが忘れてしまったものを教えてください。正に一人で革命を起こしたような人物だと思います。京都文化の中心に静かに座っていたのが売茶翁です。



売茶翁を知る入門の一冊

「売茶翁の生涯」

僧臭を脱却し、禅僧で煎茶の祖とあがれる売茶翁の生涯をまとめた初の伝記(英語版)を年代順に整理し、書きあらためた日本語訳版。

ノーマン・ワデル 著／樋口章信 翻訳
思文閣出版 刊/3,780円(税込)



煎茶を浸透させた文化人。 禅の真理を追い求めたその生き様。

こうゆうがいばいさおう

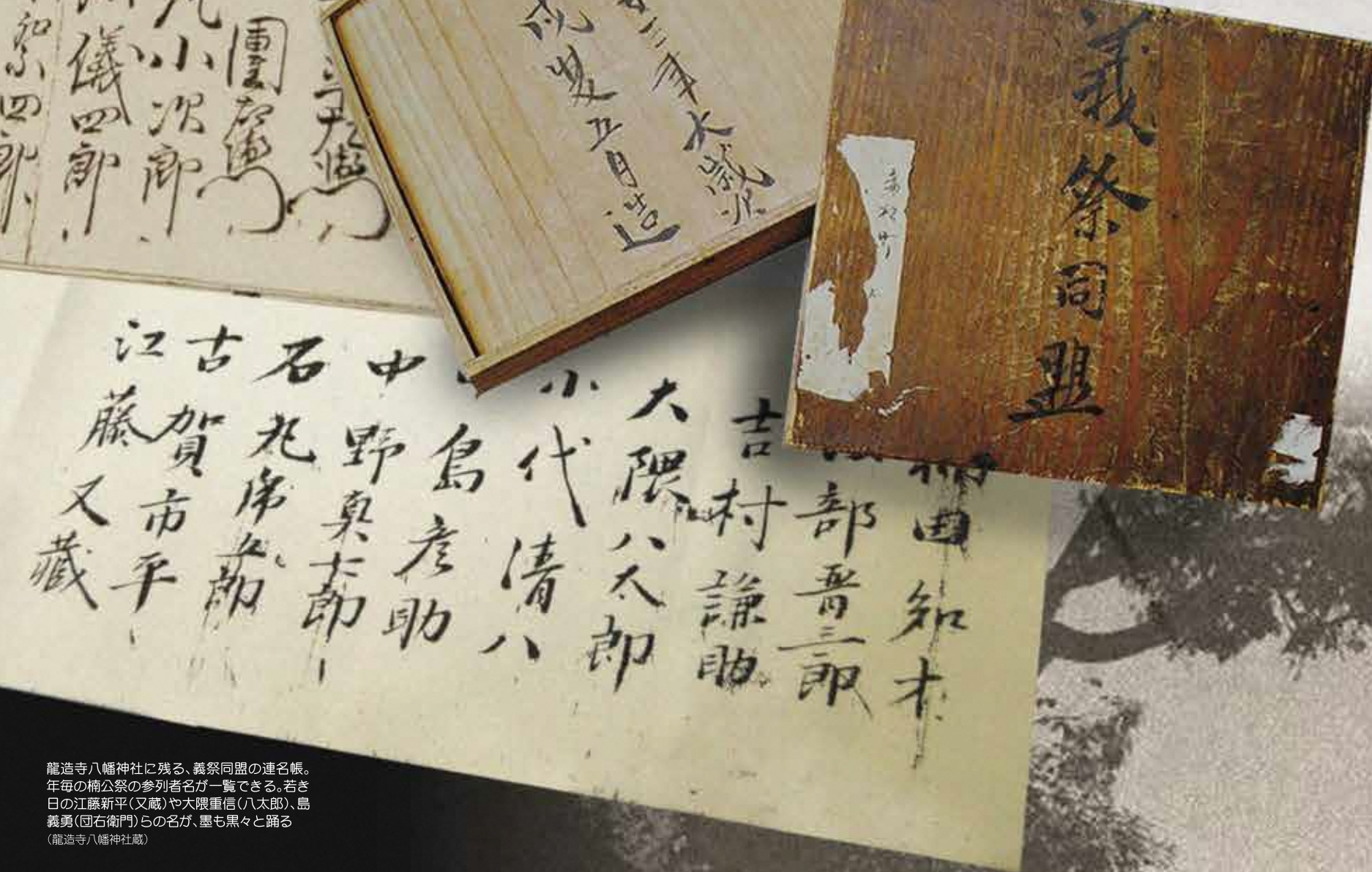
《人物像》

- 老いてなお盛んな反骨精神
- 大勢に流されない芯の強さ
- 茶の世界を広げた風流人

高遊外売茶翁



Koyugai Baisaoh



明治維新に活躍した佐賀の9人の賢人たち。義祭同盟を結成した枝吉自身はコレラによって明治維新前に亡くなってしまいが、その門下生たちは明治新政府で活躍し、枝吉を生涯の師と仰いで、理想に燃えて突っ走った。

龍造寺八幡神社に残る、義祭同盟の連名帳。年毎の楠公祭の参列者名が一覧できる。若き日の江藤新平(又蔵)や大隈重信(八太郎)、島義勇(团右衛門)らの名が、墨も黒々と踊る(龍造寺八幡神社蔵)

義祭同盟とは

義祭同盟とは弘道館の教諭であり、国学者であった枝吉神陽が1850年(嘉永3年)に設立した勤王結社で、これはペリー来航の3年前のことだった。表向きは楠公父子像を祀る崇敬の集いだったが、実際は尊王論を広げ天下国家の行く末を語りあう塾の趣を帯びていた。毎年旧暦5月25日には親や兄弟姉妹にも秘密にし、佐賀藩の若き志士たちが集い、祭礼の後は無礼講で議論を深めた。

八幡神社に残された「義祭同盟連名帳」によると、初期メンバーには、枝吉次郎(副島種臣)、島团右衛門(島義勇)、大木幡六(大木喬任)らの名前があり、後に江藤又蔵(江藤新平)や大隈八太郎(大隈重信)らも参加している。他にも佐賀藩の家老であった鍋島安房(あわ)や、後に岩倉使節団に同行する久米邦武らの名前も残り、その総数は350人に及ぶ。その参加者には幕末維新期の中央政府で活躍した人物も多く、この結社が日本の近代化に於いて果たした役割は大きい。後に二度の総理大臣を務めた大隈重信は「予がこれに加盟したのが、世に出て志を立てるきっかけになったと言ってもよい」と回顧している。



楠神社の隣には義祭同盟の碑が建立。現代でも毎年5月25日前後の日曜日には楠正成・正行親子を讃える「楠公祭」が行われる

近代日本の礎を築いた 9人の賢人。 俊英集いし義祭同盟。

近代社会のあらゆる基盤整備が行われた、幕末～明治維新期の日本。維新とは、永き鎖国と封建社会に終わりを告げ、日本という国を根底から改革する国家プロジェクトだった。そんな、新国家建設に大きな足跡を残した、佐賀の9人の賢人たちがいる。彼らのうち6人が参加し、ひたむきな議論をぶつけあった場所が佐賀市中心街にある楠神社だった。

鍋島直正

なべしま なおまさ

ずば抜けた先進性を持つ名君。技術立国日本の基を作り上げた男。



Nabeshima Naomasa

《人物像》

- 新しいものはどんどん受け入れる開明性
- 計算高いそろばん大名
- ひょうひょうとかわす昼行灯

日本をリードしたリーダーシップ

佐賀藩9代藩主・鍋島齊直(なりなお)の嫡子として江戸の佐賀藩邸に生まれる。17歳で家督を継ぎ10代藩主になると、以降30余年の在位時代に様々な改革を断行し、佐賀藩を幕末の雄藩にのし上げた。

当時、佐賀藩は福岡藩と共に一年交代で長崎港の警備についており、その負担が重く、藩の財政は逼迫していた。直正はまず粗衣粗食令を出し、自らも率先。藩の役人の大幅なリストラ、借金の整理、磁器・茶・石炭などの産業育成を通して財政改革を行い、着実に藩の財政を改善した。

教育にも力を入れ、藩校「弘道館」の拡充や洋学を学ぶ蘭学寮を設置。子息の成績によって父親の禄を決定するといった、他藩に類を見ない「文武課業法」を制定するなど、徹底して勉学を推奨し、明治政府の人材の宝庫の土壌を作った。医学にも力を入れ、医学寮を設置、当時世襲制が当たり前だった医者免許制度を日本で初めて取り入れ、さらに当時不治の病であった天然痘の根絶のため、種痘を自らの長男で試すことでその信頼性を世に示した。

そして長崎警備の名目の元、国防のための兵器の必要性を感じ、鉄製大砲製造のための反射炉を築いたり、理化学研究所「精煉方」や海軍伝習所を設置、国産初の蒸気機関の開発など、幕末佐賀藩の技術力は日本の最先端を走っていた。

その結果として佐賀藩の軍事力と多くの優秀な人材は、明治維新时期に大きな役割を果たし、日本の近代化を推進する原動力となった。

【概略年表】

誕生	没	年齢	出来事
1814	文化11年	1	12月7日誕生。幼名貞丸。
1830	天保元年	17	家督を継ぎ、佐賀藩第10代藩主となる。
1835	天保6年	22	佐賀城二の丸火災、本丸再建を表明。
1840	天保11年	27	藩校弘道館を拡張／長崎警備を強化。
1844	弘化元年	31	火術方を設け砲術研究。オランダ軍艦パレンバン号に乗り込み視察。
1849	嘉永2年	36	世子の淳一郎(直大)に種痘をためす。
1850	嘉永3年	37	築地反射炉建設に着工。
1851	嘉永4年	38	医学寮と蘭学寮を併設／神ノ島・四郎島間の埋立着工。
1852	嘉永5年	39	精煉方を設ける。
1858	安政5年	45	三重津御船手櫓古所を設ける／医学寮を移転、好生館とする。
1861	文久元年	48	隠居して閑憂を号する。
1865	慶応元年	52	長崎に英学塾「致遠館」を設ける。
1869	明治2年	56	上院議長拝命／大納言となる／北海道開拓史長官となる。
1871	明治4年	58	1月18日死去。



あなたにとって鍋島直正とは？

教育理念と開明性を持ち合わせた名君

佐賀大学名誉教授

杉谷 昭 さん



私と直正との付き合いはもう70年にもなります。私は島根の出身ですが、北京日本人学校から日本の中学に進む時には、父から直正の教育理念が残る佐賀中学校を勧められました。そこから直正一筋の人生です。とにかく開明的で、キリスト教徒のフルベッキやフレンチらを佐賀に呼んだり、多くの外国船にも乗りこんだり、子供を留学させないかと言われれば、自分が行きたいと言い出したり、幕府も手に負えないとあきれていたようです。一部では二股膏薬、日和見主義だと言われていますが、30万の領民を飢えさせないためには極端なことはできません。こんな佐賀の素晴らしい偉人を多くの人に知ってほしいですね。



鍋島直正を知る入門の一冊

「鍋島閑憂」

直正の伝記だけでなく、幕末佐賀藩の政治や教育制度等、コンパクトにまとめられ、佐賀藩研究には最適な入門書。

杉谷昭 著／中公新書 刊／798円(税込)



▲「築地反射炉絵図」(鍋島報効会蔵)
直正が鉄製大砲製造のために築地(ついで)今の佐賀市長瀬町に作らせた日本初の反射炉。後に幕府からの大砲の注文に応えるため、市内の多布施にも作られた

ショック!意気揚々の御国入りのはずが…

17歳で家督を継いだ直正が、意気揚々と江戸から佐賀へ向かう途中、品川の宿で何と足止めを食らった。実は江戸の商人たちが未払い金の返済を求めて立ちふさがっていたのだ。直正は「これほどまでに藩の財政が逼迫しているのか」とショックを受け、それがトラウマとなって倅約令など藩の様々な財政改革に打ち込んでいく。これらの借金も、その8割を放棄させ、残りを50年賦にするという、ほとんど踏み倒しに近い力技。しかしこの経験が佐賀藩が雄藩への道を進む一つのきっかけとなっていく。



▲「鍋島直正公御実歴古百図」に記された品川宿での足止めの様子
西村慶久氏蔵(佐賀県立博物館保管)

切腹を諫め、死罪を許し多くの人材を次世代に!

直正は家来の命を軽んじるようなことは一切しなかった。事実、江藤新平や大隈重信、副島種臣らも当時重罪とされた脱落をしているが謹慎処分で済んでいる。また、失敗続きの大砲製造の責任者が切腹を考えると「死のうとは何事だ!」と奮起させている。まれに死刑が決まった時は涙を流し、執行前夜は酒を禁じていたという。慈愛と人道主義に満ちた人柄だった。



▲「鍋島直正和蘭船乗込図」(鍋島報効会蔵)
開明的だった直正。長崎港にオランダ船が入港すると、その船に乗り込み、熱心にその技術を学んだ。当時外国船に乗った大名は直正だけだったと思われる

敵か?味方か?のらりとかわす大胆さ

尊王か佐幕かで揺れる中、当時強大な軍事力を持つ佐賀藩の動向は各藩の気になる所だった。味方にしようとした幕府の使いに、直正は「痔でござってな」と断り真意を見せない。最後は倒幕軍につき、明治維新の大きな原動力の一つとなったが、直正は程なくして亡くなってしまふ。「戦国の世に生まれていれば、もう少し面白い世を送っていたかもしれぬ」。死ぬ間際、そう漏らしたといわれる。



鍋島直正二行書「先憂後楽」(佐賀県立博物館蔵)▲
「国を思うものは、常に民に先立って国のことを憂い、民が楽しんだ後に自分が楽しむ」という意味で、直正の座右の銘。まさに天下国家を憂い続けた直正の人柄を表す言葉



▲安政6年11月、江戸溜池邸にて撮影された46歳の直正。まさに佐賀藩内の様々な改革や技術・産業開発などが行われていた隆盛期の頃の肖像(鍋島報効会蔵)

勉強するなら佐賀!中央からの地方留学

明治政府の中心的人物であった岩倉具視は、多くの人材を輩出した佐賀藩の教育に強い関心を示し、自分の二人の息子を佐賀へ留学させた。当時、中央から地方への留学は珍しく、いかに優秀な教育の場として注目されていたかが分かる。二人の姿は、長崎にある佐賀の英語学校「致遠館」の集合写真にも見ることができる。



▶長崎「致遠館」の写真に残る岩倉具視の息子、岩倉具経(左)と具定(右)



モデルコース

鍋島直正足跡探訪コース【約2時間半】(移動約55分+観光散策約95分)

数多くの直正の偉業を今に伝える資料館や史跡を巡り、その全容を知る



徒歩で約15分

佐賀城本丸歴史館

地図▶P34 G-8

直正が再建した本丸を忠実に再現した歴史資料館。まずはここで直正の功績や幕末佐賀藩の歴史を!ガイドによる説明も。

〔佐〕佐賀市城内2-18-1
〔開〕9:30~18:00
〔休〕12/29~12/31、臨時休館日
〔料〕見学無料
〔電〕☎0952-41-7550



徒歩で約5分

佐嘉神社

地図▶P34 G-8

佐賀藩を大きく飛躍させた直正の威徳を賛え創設された神社。その象徴とも言える復元カノン砲に注目。

〔佐〕佐賀市松原2-10-43
〔電〕☎0952-24-9195



徒歩で約25分

徴古館

地図▶P34 G-8

鍋島家代々の伝来品を管理、展示している博物館。本物こそが持つ魅力を肌で感じる事ができる。季節ごとに催しあり。

〔佐〕佐賀市松原2-5-22
〔開〕9:30~16:00
〔休〕日曜、祝日、年末年始、展示準備期間
〔料〕300円(小学生以下無料)
〔電〕☎0952-23-4200



徒歩で約10分

築地反射炉跡

地図▶P34 F-8

直正が長崎警備のための鉄製大砲を製造するために建設した国内初の反射炉跡。日本の近代化産業の原点とも言える場所。

〔佐〕佐賀市長瀬町9-15
(日新小学校校庭内)



神野公園の「隔林亭」

地図▶P34 E-6

直正の別邸「神野のお茶屋」の茶室を復元したもので、幕末維新时期は迎賓館としても利用された。ひとときの閑、殿様気分が味わえる。

〔佐〕佐賀市神園4-1
〔開〕9:00~17:00
〔休〕月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始
〔料〕見学無料、呈茶サービス有(一席300円)

はみだし情報▶直正が置いた理化学研究所「精煉方」は当初思うように成果が出ず、家臣には廃止を進言する者もいたが、直正は「あれは余の道楽だ」と言いつつ、存続させた

枝吉神陽

えだよし しんよう

日本の未来を説くカリスマ学者。 憂国の熱き俊英たちが仰いだ人生の師。

《人物像》

- 若者に夢を与えたカリスマ
- 学者であり思想家
- いたわり、気遣いのできる細やかさ

Edayoshi Shinyou

義祭の志士たちに慕われた高潔な師

藩校・弘道館の教諭であった枝吉南濠の長男として佐賀城下鬼丸町に生まれる。実弟に後に明治政府で外務卿などを務めた副島種臣がいる。幼児期より神童と賞され、23歳の時には江戸幕府直轄の昌平坂学問所に学び、全国の俊英が集まる同舎の舎長を務める。帰郷した後は弘道館で教鞭を執る傍ら、父南濠の唱えた「日本一君論」を受け継ぎ勤王運動を行う。1850年、楠木正成を祀る「義祭同盟」を結成。尊王思想を説き、江藤新平や大隈重信、副島種臣、島義勇、大木喬任など、後に明治政府の重鎮となる青年たちの眼を開かせた。幕末には各地に勤王組織が結成されるが、義祭同盟は藩の執政にも参加したため、過激な行動には至らなかったが、志士魂を刺激し国家観を醸成する熱のこもった議論が繰り広げられた。1862年、コレラに感染した妻をいたわり看病するうちに自身も感染し、先立つ妻を追うように2日後、世を去った。彼の人格や思想は義祭の青年たちの心に宿り、明治の国作りの随所随所で影響を及ぼすこととなる。

【概略年表】

誕生	1822	文政5年	1	5月24日、佐賀藩士枝吉南濠の長男として誕生
江戸遊学	1844	弘化元年	23	江戸遊学を命じられ、昌平坂学問所で学ぶ
諸国遊行	1846	弘化3年	25	諸国遊行の旅に出て、各地の文化に触れる
結婚				佐賀に戻り結婚
復職	1847	弘化4年	26	江戸の昌平坂学問所に復帰
舎長に就任	1848	嘉永元年	27	昌平坂学問所の舎長に任じられる
教鞭執任	1849	嘉永2年	28	佐賀に戻り、弘道館で教鞭を執る
義祭同盟設立	1850	嘉永3年	29	「義祭同盟」設立
死去	1862	文久2年	41	コレラに感染した妻を看病し自らも感染、8月14日死去



▲龍造寺八幡神社に伝わる義祭同盟の連名帳（龍造寺八幡神社蔵）

あなたにとって枝吉神陽とは？

若き志士たちを導いた勤王の巨星

佐賀市文化財保護審議会委員
大園 隆二郎 さん



枝吉は幕末当時の若い志ある青年たちを魅き付ける魅力という引力を持った人物でした。それは江戸の昌平坂学問所の舎長を務めた時も、佐賀の弘道館で教えた時も同じでした。勤王派で嘉永3年（1850年）には義祭同盟を主宰し、西洋列強が近づく時勢に多くの青年に日本のあり方とその実現を考えさせ、生涯の師と仰がれました。惜しむべきは明治維新の前に、41歳の若さで亡くなってしまったことです。もし生きていれば明治新政府でも多くの功績を残したのではないのでしょうか。

枝吉神陽を知る入門の一冊

「佐賀の幕末維新 八賢伝」

近年、語られることの多かった「佐賀の七賢人」に枝吉を加え、八賢人として紹介したはじめての本。枝吉も含め、各々の業績やエピソードが読みやすくとめられている。
福岡博 著／出門堂 刊／1000円（税込）



▲「義祭同盟」の象徴とも言える楠木正成と正行父子像。楠神社の例祭（5月25日前後の日曜に開催）の時に開扉される

九州に枝吉先生あり 松陰が息をのむ「奇男児」

枝吉の門下から明治政府で活躍する多くの偉人を輩出したことから「佐賀の吉田松陰」とも呼ばれているが、松陰は実際に佐賀に来て枝吉と会ったことがある。その印象は「奇男子」。後に九州に向かうという友人には、必ず枝吉を訪ねるようにと勧めている。また、水戸の藤田東湖と共に「東西の二傑」とも称されていた。



▲吉田松陰（国立国会図書館蔵）

その容姿は体育会系？ 富士山だって下駄履きで

枝吉は残念ながら後ろ姿の肖像画しか残っていないが、伝えられるところによると、身体は大きく、足は長く、顔は角張っていて口は大きく、まなじりは長く、目は輝き、声を出すと障子が震えたとか。一見、書生とは思えない体育会系の体型。弟の副島種臣の話によれば、20里（約80km）は毎日歩いてよいと言う程の健脚家で、江戸の昌平坂学問所（学校）にいた時は、下駄履きで富士登山をしたなど信じられない話もある。

枝吉神陽足跡探訪コース【約2時間】（移動約70分＋観光散策約50分）

モデルコース 義祭同盟の八幡神社から墓所まで、若者の育成に捧げた人生を辿る



龍造寺八幡神社（楠神社）

地図▶P34 G-7

境内にある楠神社（写真）は枝吉が主宰した義祭同盟の拝殿であり、ここから多くの俊英たちを輩出していった。

〔佐〕佐賀市白山1-3-2
〔問〕☎0952-23-6049



弘道館跡

地図▶P34 G-8

枝吉が教鞭を取り、佐賀の多くの偉人を輩出した藩校、弘道館の跡地。石碑は徴古館の左側に建ち、当時を偲ばせる。

〔佐〕佐賀市松原2-5-22（徴古館横）
〔問〕徴古館☎0952-23-4200



枝吉神陽誕生地

地図▶P34 G-9

佐賀城の南堀沿い、かつて枝吉の家の屋敷があった所で、現在は社会福祉会館の駐車場。弟の副島種臣の誕生地も同地。

〔佐〕佐賀県佐賀市鬼丸町7-18



梅林寺

地図▶P34 F-9

義祭同盟結成まで、楠公父子の木像が安置されていた寺。1850年の結成後、数年間はここで楠公を祀る義祭が執り行なわれた。

〔佐〕佐賀市本庄町大字本庄377
〔問〕☎0952-24-9005



高伝寺

地図▶P34 F-9

鍋島家、龍造寺家の菩提寺で、枝吉の墓もここに。弟の副島種臣の墓と枝吉の遺徳碑も並び、その威徳を偲ぶことができる。

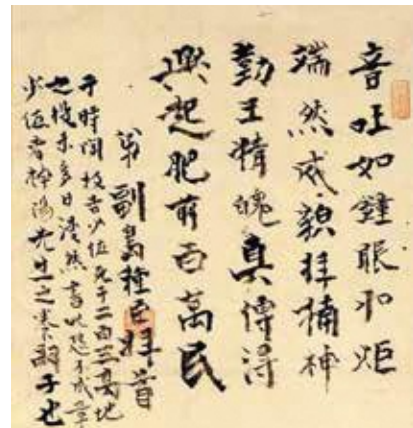
〔佐〕佐賀市本庄町大字本庄1112-1
〔開〕9:00～20:00
〔料〕300円
〔問〕☎0952-23-6486



▲昭和7年頃の楠公社

？ 楠木正成とは？

後醍醐天皇に仕え、1336年の湊川の戦いの折、戦局的に敗北すると知りながらも忠義のために戦ったことから、尊王思想の象徴として祀られるようになる。佐賀藩では1663年に『楠公父子桜井の駅訣別の像』を製作し、日本で初めて楠像を祀っている。



▲「神陽先生拜楠神図」（個人蔵／佐賀県立博物館 寄託）枝吉の姿を伝える唯一の絵図で、楠木正成を祀っている図



▲「神陽先生拜楠神図」（個人蔵／佐賀県立博物館 寄託）枝吉の姿を伝える唯一の絵図で、楠木正成を祀っている図

はみだし情報 佐賀では7賢人といつと、鍋島直正、大隈重信、江藤新平、佐野常民、島義勇、大木喬任、副島種臣。枝吉神陽を入れて「8賢人」。最近注目を浴びてきた相良知安を入れると「9賢人」。

島義勇

しまよしたけ

北の大地を切り拓いた開拓者。理想へ突き進む、体当たり人生。



Shima Yoshitake

- 《人物像》
- 火が付きやすい情熱型
 - 思い立ったら一直線
 - 自ら切り開くチャレンジャー精神

熱き心で、極寒の大地を切り拓く

佐賀藩士島市郎右衛門の長男として佐賀城下精(しらげ)小路に生まれる。通称は岡右衛門。9歳の頃より藩校「弘道館」に学び、23歳で卒業。家督を継いだ後は諸国を遊学し、佐藤一斎や藤田東湖らに学ぶ。帰国して藩主鍋島直正の外小姓、弘道館目付となる。枝吉神陽の「義祭同盟」にも創設期から参加し、そこで江藤新平や大木喬任とも出会っている。

そして1856年、直正の信頼が厚かった島はその命で、当時の未開拓地であった蝦夷地(現在の北海道)の探検に随行。厳しい寒さの中、約2年に渡って北の大地を歩き続け、その詳しい調査結果を記した「入北記」を残している。佐賀に戻った島は直正に蝦夷地への移民を建言するが、この時は「まだ時期尚早」と断られている。

明治新政府では直正が蝦夷開拓督務となると、その経歴を買われ、開拓使判官に就任。北海道開拓の町づくりを任される。極寒の中、札幌を中心とした町づくりを進めるも予算による衝突で志半ばで解任。後に秋田県権令となるも、ここでも中央政府とぶつかりまたも解任。後の佐賀の役では憂国党の党首となって戦うも敗れ、53年の理想に燃えた生涯を閉じた。

【概略年表】 敬称略				
1822	文政5年	1	9月12日、島市郎右衛門の長男として佐賀城下に誕生	
1830	天保元年	9	藩校弘道館に入学	
1844	弘化元年	23	弘道館を卒業して諸国に遊学	
1847	弘化4年	26	弘道館目付、藩主鍋島直正の外小姓となる	
1850	嘉永3年	29	義祭同盟発会式に出席。江藤新平、大木喬任などを知る	
1856	安政3年	35	鍋島直正の命により北海道、樺太の探検調査に出発	
1858	安政5年	37	帰藩、御蔵方、同組頭から香焼島守備隊長となる	
1867	慶応3年	46	藩命で軍艦奉行、朝令で陸軍先鋒参謀の佐賀藩兵付となる	
1869	明治2年	48	蝦夷開拓史首席判官として北海道に赴任	
1870	明治3年	49	蝦夷開拓史首席判官解任／明治天皇の侍従に任命	
1872	明治5年	51	秋田県権令となり八郎潟干拓施策を打ち出すが4ヶ月で解任	
1874	明治7年	53	佐賀の役、鹿児島で捕縛され、4月13日没	

【1889年(明治22年)賊名を解かれ、1916年(大正5年)従四位を贈られた】



▲現在の札幌市の様子。島が極寒の寒さに耐えながら切り開いた荒地には多くの人々の生活と憩いの場となっている

 あなたにとって島義勇とは？

北の大地を切り拓いた佐賀の誇り

佐賀市八戸在住
井手 良治 さん



島は佐賀が誇る賢人の一人ですが、実は地元佐賀では余り知られていない賢人の一人なんです。それは彼の功績のほとんどが北海道や秋田など北の方に集中しているからなんです。私の同級生も北海道在住なのですが、佐賀県人の先進性は高く評価され、島の銅像や記念碑もたくさん立てられています。佐賀の偉人がそんな遠い土地で親しまれているのは嬉しいですね。これからは地元佐賀の皆さんにも、もっと人間、島義勇のことを知って欲しいです。

 島義勇を知る入門の一冊

「島義勇」(佐賀偉人伝05)

佐賀城本丸歴史館が刊行する幕末明治に活躍した人物伝シリーズ。開拓判官として北海道開拓にかけたその足跡に絞って書や絵図などと共に詳しく紹介している一冊。
榎木洋介 著／佐賀城本丸歴史館 刊
1000円(税込)





▲「入北記」(北海道大学付属図書館蔵)
島が2年間に渡る北海道探索の記録をまとめたもの。
植物や生態、アイヌの人々の生活の様子など、図入りで詳しく描かれている



▲島が2年間で歩いた道程。現ロシア領の樺太にも渡っている。寒い夜は犬を抱き締めて暖をとったとのこと。大変な苦労が偲ばれる

極寒の大地で島が目指した理想郷

島が都市設計の基礎を行った札幌の街。地図で見ると、道が碁盤の目のように並び、地名にも一条、二条と言う名前が並んでいる。実はこれ、島が京都の町並みを参考に設計したため。札幌に日本一の町作りを目指した島だったが、厳冬の状況下、その工事は困難を極め、1年分の予算を3ヶ月で使い果たしてしまい、想い半ばで解任になってしまう。しかし、その先駆者たる島を札幌開拓の父として掲載し紹介している教科書もあるのだ。



▲1889年(明治22年)の札幌地図(札幌市中央図書館蔵)
碁盤の目のように整然と整備された町並みの中央には、当時としては類を見ない幅50mの大通りが見て取れる

島を駆り立てた船中での挑発

士族による不穏な動きがある佐賀へ向かうため、島は船へと乗り込んだ。そこには、佐賀県権令として赴任する岩村高俊の姿もあった。船中、岩村は取巻き相手に佐賀人を高声にののり、それを聞いた島は岩村と掴み合いの喧嘩になる。翌日、下関で降りた岩村が兵隊を連れて佐賀に乗り込むと聞いた島は怒り、討伐されようとしている佐賀のために起つ決心を固めたという。

盟友必ずしも同志ならず 盟友・江藤新平との関係

島は尊王攘夷の本場である水戸の学者、藤田東湖に思想的に傾倒しており、義祭同盟の志士たちの中でも特に過激な攘夷論者として知られていた。佐賀の役で江藤新平と一緒に戦ったのは思想的に近い同志というよりも、各々の事情で政府軍と共に迎え討ったというのが真相らしい。



▲「佐賀県逆動聞」1877年刊(佐賀県立博物館蔵)
佐賀の役を描いた錦絵。島や江藤新平の姿も描かれている。



▲束帯姿の島義勇(北海道大学付属図書館蔵)

二つの呼び名「団によんさん」と「判官さま」

島は幼名を岡右衛門といい、佐賀では「団によんさん」と呼んで親しまれていた。また、札幌では開拓判官だったことから「判官さま」と呼び慕われ、その名も「判官さま」というお菓子まで販売されている。中に粒あんが入った焼きもちで、生地に含まれるそば粉の香りが鼻腔をくすぐる。



▲島の愛称「判官さま」の名がつけられたお菓子
団 六花亭
☎0155-37-6666



▶札幌市役所のロビーに立つ約2.5mの島義勇像

島義勇足跡探訪コース【約2時間】(移動約95分＋観光散策約25分)

モデルコース その生誕地から墓所まで、佐賀に残るその軌跡を辿る



徒歩で約15分

島義勇誕生地

地図▶P34 F-8
佐賀大学の北側の細い路地沿いにある、当時島家の屋敷があったとされる場所。今では石碑が立つのみ。
(佐賀市)佐賀市与賀町1342付近
(佐賀市)☎0952-25-2848 FAX0952-25-4165



徒歩で約15分

宝琳院

地図▶P34 G-9
佐賀の役の際に島率いる憂国党が本営とした寺。
(佐賀市)佐賀市鬼丸町12-30
(佐賀市)☎0952-25-2848 FAX0952-25-4165



徒歩で約15分

殉国十三烈士の碑

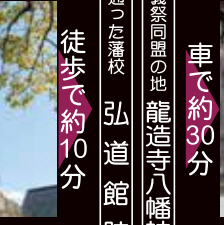
地図▶P34 G-8
江藤新平や島をはじめ、佐賀の役で殉死した13人を偲ぶ慰霊碑。県立博物館近くの歩道沿いにある。
(佐賀市)佐賀市城内1-15-23付近(佐賀県立美術館・博物館敷地内)



徒歩で約15分

万部島(佐賀の役記念碑)

地図▶P34 G-8
鍋島家の安泰を祈って法華經一万部を読んだ小さい島の跡。敷地内の「佐賀の役記念碑」を恐るしげな亀(亀鉄)が背負う。
(佐賀市)佐賀市水ヶ江1-8-5付近



徒歩で約10分

弘道館跡

地図▶P34 G-8
義祭同盟の地 龍造寺八幡神社
通った藩校
徒歩で約10分



徒歩で約30分

来迎寺

地図▶P33 C-3
葉隠のふるさと、佐賀市金立町の小高い丘の上にある島家の菩提寺で、島も今はここで静かに眠っている。
(佐賀市)佐賀市金立町大字金立1660
(佐賀市)☎0952-98-1025

はみだし情報 秋田県権令の島は八郎潟開拓予算資金を政府の井上馨に要望したが完全無視され、その後つかみあわんばかりの大論争をしたが結局予算がつかず免官されてしまった。八郎潟干拓は昭和23年なので島の先見の明からは75年もの月日が流れている。

副島種臣

そえじま たねおみ



Soejima Taneomi

世界が認めた正義の外務卿。その「書」に見るフリーマン精神。

- 《人物像》
- 当代随一の学識と高い人望
 - 人に推される実力ある人
 - 芸術的才能を開花させた人

人を取りこにする人柄と学識

佐賀藩士枝吉南濠の二男として佐賀城下鬼丸町に生まれる。国学者である父と兄・枝吉神陽の影響により、早くから尊王攘夷思想に目覚める。7歳で藩校「弘道館」に入学。出来の良い兄の陰で、劣等感に悩む日々だったが、一念発起し21歳で弘道館首班を務めるまでになる。

32歳の時、父南濠が亡くなると同藩の副島利忠の養子となる。兄の「義祭同盟」にも参加。1867年には大政奉還を進めるために大隈重信と脱藩するが、捕えられて謹慎処分を受ける。

明治政府では参与・制度取調局判事となり、1869年に参議、1871年に外務卿を歴任。明治5年のマリア・ルス号事件で「正義の人」として一躍国内外で脚光を浴びようになる。翌年には台湾の宮古島島民遭難事件の処理交渉のために清を訪れ、清朝高官との詩文交換でその博学ぶりも評価され、信頼を一層深めた。同年、征韓論争に敗れて下野。自宅を売り払い、中国大陸を旅行し見識を深める。後に明治天皇の待講を務め、天皇からも寵愛された。

西南戦争で敗れた西郷隆盛が日本の未来を託す遺言状の宛先に副島を選んだことからわかるように、幕末維新期～明治初期の多くの英傑から全幅の信頼を受ける学識と人柄であった。

書家「蒼海」としても多くの作品を残し、その独創的な書は今もなお多くの人を魅了している。同じく佐賀出身の書聖、小林梧竹と共に近代書の源流と言われている。

【概略年表】 読み終			
1828	文政11年	1	10月17日、佐賀藩士枝吉南濠の二男として誕生
1848	嘉永元年	21	弘道館内寮生の首班となる
1852	嘉永5年	25	京都に留学して、皇学を研究、「日本一君論」を説く
1859	安政6年	32	佐賀藩士副島和忠の養氏となり、副島二郎種臣と名乗る
1865	慶応元年	38	長崎の「致遠館」において、フルベッキより英学を学ぶ
1867	慶応3年	40	大隈重信とともに脱藩して上京、「大政奉還」を説く
1868	明治元年	41	新政府にて参与となり、制度取調局判事に任ぜられる
1869	明治2年	42	参議に任ぜられ、西郷隆盛とともに東北諸藩の処置
1871	明治4年	44	樺太の国境問題について露国領事と談判／外務卿となる
1872	明治5年	45	マリア・ルス号事件
1873	明治6年	46	清国におもむき「日清修好条約」の批准を交換、清国皇帝に謁見
1874	明治7年	47	板垣退助、江藤新平らと愛国公党を設立、民撰議院設立建白書提出
1876	明治9年	49	霞ヶ関の自宅を売り、清国歴遊の旅に出る
1879	明治12年	52	宮内庁御用掛一等侍講に任ぜられる
1891	明治24年	64	枢密院副議長に任ぜられる
1892	明治25年	65	3月、内務大臣に任ぜられるも6月辞任／再び枢密顧問官に
1905	明治38年	78	1月31日、死去

あなたにとって副島種臣とは？

書に現れる、その人格

佐賀県教育連盟 元会長／書家
米倉 基峰 さん

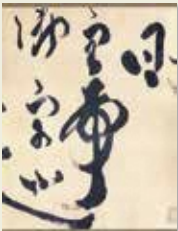


佐賀では政治家として有名ですが、近代書の先駆者としても大きな功績を残した人なんです。その書は独走的で胆大心小、質実剛健・曲った事が嫌いな本人の人間性がよく出ています。また、漢詩、漢文に達者で、中国でも雄渾絶画の趣きと賞賛され、外交にも大きな役割を果たしました。とにかく政治家としても書家としても、良いと思った事は徹底的にやりぬく、そんな人でした。もっと地元佐賀の人にも副島種臣、そして書家「蒼海」の素晴らしさを知って欲しいですね。

副島種臣を知る入門の一冊

「蒼海 副島種臣-全心の書-展 図録」

没後100周年を記念して開催された書道展の図録。副島の書を中心に名品140点を収録。署名、印、年譜なども付載した副島種臣書の基礎資料となる一冊。
佐賀県立美術館 編／佐賀新聞社 刊
2500円(税込)



▲明治5年、マリア・ルス号事件を担当していた頃の副島の肖像

人間としての法に従った正義の人

副島を語る上で外せないのがマリア・ルス号事件。明治5年(1872)に横浜港に停泊中のペルー船マリア・ルス号内で奴隸的扱いを受けていた清国人231人を解放した事件で、日本初の国際裁判だった。国際問題になることを恐れ、周りが不干渉を決め込む中、外務卿の副島は断固として人道主義・日本の主権独立を訴え、勝利を勝ち取った。この事件を機に、副島は「正義の人」として国際的にも広く知られるようになった。

これぞ芸術家気質？天下の無精者

藩校弘道館での寄宿舎生活時代の話、朝起きると皆は裏の松原川で顔を洗うことになっていたが、副島は二本の指を濡らして、目の縁を擦っただけで済ませていた。また、副島が養子に入った佐賀市西与賀町の今津周辺では、子供がいかげんな風呂の入り方をするのを「二郎さん(副島の通称)の風呂入り」といったそうである。彼の豊かな髭もその証か。

副島種臣足跡探訪コース【約2時間】(移動約75分＋観光散策約45分)

モデルコース 佐賀市街に残る、副島の軌跡と書作品を訪ね歩く



副島種臣生誕地

地図▶P34 G-9

佐賀城南堀沿いにあった枝吉家の屋敷跡。現在は社会福祉会館の駐車場で、その石碑の揮毫(きごう)も見事。

〔住〕佐賀県佐賀市鬼丸町7-18



佐賀県立美術館

地図▶P34 G-8

「蒼海」の名で残した多くの書の作品が収蔵され、常設展示も数点。展示会なども企画されるので、まずは電話確認を。

〔住〕佐賀市城内1-15-23

開 9:30～18:00

〔休〕月曜(祝日の場合は翌日)、12/29～31

料 無料(企画展は除く)

問 ☎0952-24-3947



弘道館跡

地図▶P34 G-8

藩校弘道館跡。裏手には松原川が流れ、寄宿舎時代に多くの仲間と共に過ごした生活が想像されて楽しい。

〔住〕佐賀市松原2-5-22(徴古館横)

問 徴古館 ☎0952-23-4200



与賀神社(与賀神社)

地図▶P34 G-8

副島の「神降百福」の直筆が社務所に、本額が本殿の拝殿正面に掲げられ、いつでも気軽に副島の書拝める穴場。

〔住〕佐賀市与賀町2-50

問 ☎0952-23-6091



高伝寺

地図▶P34 F-9

鍋島家、龍造寺家の菩提寺で、兄枝吉神陽の遺徳碑と並んで副島の墓があり、二人を同時に参りができる。

〔住〕佐賀市本庄町大字本庄1112-1

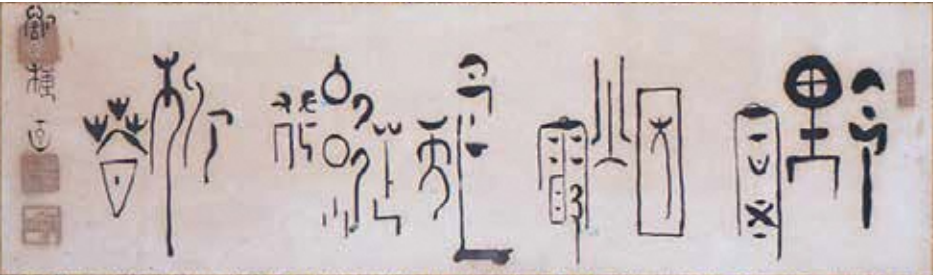
開 9:00～20:00

料 300円

問 ☎0952-23-6486



▲「帰雲飛雨」(佐賀県立美術館蔵) リズミカルに丸を重ねるように筆を走らせた、躍動感あふれる自由な書



▲「春日其四句」幾何学的パターンを連ねた書は絵画にも似る。読みは「野は烟霞(えんか)の色に富み、天は花柳の春を綴(ほしいま)にす」。

書道デザイナー 独創的すぎる書

副島は「蒼海」の名で多くの書を残しており、その作品は書道界に大きな衝撃を与えた。作風は誰にも似ず、独創性にあふれ、文字というよりむしろ絵画のようにも見える。書道雑誌も蒼海特集すれば良く売れ、展覧会の図録も売り切れてしまうほど。ちなみに「佐賀新聞」の題字も副島の作。

自由なる精神 天皇にも愛された人柄

副島は明治天皇に学問を講じる「待講」という職についていた。しかし周りのやっかみもあり、副島が辞職しようとした時、まだ続けて欲しいと天皇直筆の手紙を賜り、思いとどまったことがあった。また、副島の貧乏暮らしを見かねた天皇がお金を送った時には「名君は万人に平等であらねば」とこれを辞退。その男気あふれる高潔な人柄が愛されていた。



▲「富士山画詠額」(佐賀県立美術館蔵) 副島は息子道正から、「心配」で通した一生と言われ、日本の国の将来を憂いた。「ひと津可の石をそこ者く可き根亭そ代爾多くひなき多可根とはなる種臣写并題 于時壬辰八月」



▲若き日の副島(左端)と大隈重信(右隣)と思われる写真(大隈重信記念館蔵)

はみだし情報

副島は当時の外国領事たちにも「信頼できる第一級の人物」と評価が高かった。それは日本が遅れた国だからといって卑屈にならずに主張すべきはしっかりと、そしてそれさえ認められれば融通をきかせ歩み寄りのスタンスを失わなかったからだったという。副島には日本の国のあり方を示しながらも尊敬を勝ち得た事例が多い。

江藤新平

えとう しんぺい

「民権」を唱えた初代司法卿。
正義を信じ、貫き通した悲運の士。



Eto Shinpei

- 《人物像》
- 逆境をものともしない向上心
 - 正義を信じた一本気
 - 周りが見えない自己没頭派

民のために走り抜けた法律家人生

佐賀城下八戸村に佐賀藩士の江藤胤光の長男として生まれる。父胤光は佐賀藩士とはいえ、手明鑑(てあきやり)という下級武士で、日々の生活にも困窮するような家だった。

12歳の時に藩校弘道館に入学、人並みはずれた頭脳を持っていたが、学費が払えず進学もままならなかった。1850年に校吉神陽により「義祭同盟」が結成されると参加、尊王思想などを学び、仲間と議論に明け暮れる。23歳で意見書「図海策」を書き、開国論を唱える。29歳の時に藩の方針に業を煮やし脱藩、京都に入り当時の世相をまとめるも、謹慎を命じられる。

大政奉還によって幕府が消滅すると謹慎を解かれ、郡目付として復帰。新政府が誕生すると京都に派遣される。江戸城が無血開城されると城内の文書類を接収し、当時の法令を読み解く。

そして明治5年、明治新政府において初代司法卿に就任。四民平等を説き、当時「民権」という概念がなかった時代に、民の権利を守り、誰でも公平な裁判ができるようにした。それは、それまで「お上」と言われていた役人すらも訴えられる画期的なものだった。また学制制度や警察制度整備、娼妓解放令などを進める。しかしその急激な改革が政府内の反感を買ったのも事実で、最後は佐賀の役に敗れ、鹿児島から高知への逃亡の末捕らえられ、まともな裁判もなしに処刑されてしまう。時代を達見した天才の早すぎる最期だった。

【概略年表】

誕生地	1834	天保5年	1	2月9日、江藤胤光の長男として佐賀城下八戸村に誕生
	1845	弘化2年	12	父に従って晴気村(小城町)に移る／弘道館に入学
	1849	嘉永2年	16	弘道館内書生寮に寄宿／父が佐賀代官出仕となる
	1856	安政3年	23	「図海策」を書き、開国論をとなえる
	1862	文久2年	29	脱藩し京都に入り「京都見聞」をまとめる／謹慎を命じられる
	1867	慶応3年	34	12月、閉門を許され郡目付となる／京都で活躍を始める
	1868	明治元年	35	西郷隆盛と共に江戸城に入る／大木喬任と共に東京遷都を建白
	1869	明治2年	36	佐嘉藩権大参事となり副島種臣と藩政改革
	1870	明治3年	37	「国政改革案」など建議
	1871	明治4年	38	文部大輔、左院副議長となる／廃藩置県を施行
	1872	明治5年	39	司法卿となり法制公布施行に当たる
	1873	明治6年	40	参議となる。征韓論に破れて、10月参議を辞任
	1874	明治7年	41	佐賀の役。薩摩、土佐へ逃れ、土佐にて捕縛。4月13日没

【1889年(明治22年)賊名を解かれ、1916年(大正5年)正四位を贈られた】

あなたにとって江藤新平とは？

信念に散った、不器用な「政治家」

文化財保存佐賀県協議会 副会長
古賀 久人 さん



大久保利道がドイツ的な軍国主義を進めたのに対し、江藤はフランス的な人民主義で、「まず国民を裕福にしなければ」と考えていました。そんな高い人権意識、人の自覚性を大事にする考え方が好きですね。もし江藤が生きていたら、後の戦争は起こらなかったのではないかと思います。しかし、正しいと思ったことを貫き通す性格は「政治家」としては仇ともなり、結果佐賀の役で非業の死をとげてしまいます。近年では佐賀の役は土族反乱ではなかったとの研究もあり、今一度再評価してほしい人物です。

江藤新平を知る小説

「歳月」(上・下)(文庫版)

司法卿、江藤の生涯を綴った司馬遼太郎の名作。江藤の生涯と共に、その性格や人間性、また当時の明治政府の内状を知る上でも格好の一冊。他の佐賀賢人もいぎぎと登場。

司馬遼太郎 著／講談社 刊
上下巻 各750円(税込)



▲カメラを覗み付けるような江藤の肖像写真(佐賀城本丸歴史館蔵)



▲司法省高官とともに。前列右から3人目が江藤(佐賀城本丸歴史館蔵)

ちょっと損してる？無愛想写真の真実

おなじみの仏頂面の江藤の肖像写真。実は脱藩し、京都に行った時に撮られた、生涯一度の肖像写真。その表情にも訳があり、京都で世話になっていた桂小五郎や伊藤博文らに言われるままに着物を着せられ、言われるままに写真を撮っている自分に腹が立っていたからだとか。それ以来写真嫌いになった江藤は、ほとんど写真に写らなくなった。

女性観に影響？からたち小路の屈辱

まだ江藤が若い頃、佐賀藩には大晦日に女性が集まって、からたち小路を歩く藩士を担ぎ上げるなどして鬱憤を晴らすという慣習があった。その日、うっかりからたち小路を通った江藤だが、女性陣はそのみすばらしい姿にたじろぎ近付いてこない。憤慨した江藤は、その場で手にしていた「孟子」を大声で読み上げて立ち去った。江藤にとって、なんとも屈辱的な出来事だった。



からたち小路は現在の佐賀西高の南側通りだと考えられる▲

法の下には平等であれ尾去沢事件の追求

1871年、大蔵省の井上馨は不当な証文で尾去沢鉱山を差し押さえ、それを私物化しようとした。銅山の持ち主だった鍵屋茂兵衛はこれを司法省に訴え、司法卿の江藤がこれを追及、井上を逮捕できないまでも辞職に追い込んだ。同じ政治家相手でも追及の手を緩めない正義の人だったが、そのせいで薩長閥の恨みを買うことになってしまった。

その時、江藤は叫んだ「裁判長、私は…!」

司法卿だった江藤は日本の裁判制度や組織的な警察機構を整備した。指名手配写真を導入したのも江藤だった。しかし、佐賀の役で追われる立場になった時、その警察と手配写真のために捕まることとなった。この裁判のなかでは江藤が整備したはずの正規の手続きが執られることはなく、最後は司法省時代の部下の判決で、既に禁止されていた斬首刑に処されるという、あまりに皮肉かつ悲劇的な最期を迎えることとなった。江藤には発言の権限すら与えられなかった。



▲1872年(明治5年)に江藤が司法卿に任命された時の辞令書((辞令)江939-28、佐賀県立図書館蔵)



▲江藤が使用していた印章上は「新平」、下は本名の「胤雄」(たねお)(佐賀城本丸歴史館蔵)



▲佐賀の役で立てこもった佐賀城の門に残る弾痕の跡

▲江藤捕縛を報じた東京日日新聞の記事(早稲田大学図書館蔵)

《毎年4月14日は江藤新平銅像まつり》

江藤新平の銅像
佐賀の役で捕縛された江藤や島義勇が亡くなった4月13日には佐賀の役記念碑が建つ万部島(佐賀市水ヶ江一丁目)で毎年慰霊祭が行われる。その翌日4月14日には神野公園の江藤像の前で銅像まつりが開催される。江藤や島ファンはこの2日間にはぜひ佐賀に足を運んでみては。

江藤新平足跡探訪コース【約2時間】(移動約80分+観光散策約40分)

モデルコース 江藤が苦悩しながらも、育ち、学んだ佐賀の暮らしを知る



車で約15分

金福寺

地図▶P33 A-1

脱藩した江藤が謹慎処分になっていた寺。天下国家の先を憂うも何もできず、悶々と過ごした江藤の日々を追体験。

〔佐〕佐賀市富士町大野916

〔図〕



車で約20分

実相院

地図▶P33 B-3

江藤率いる征韓党が佐賀の役の際に本営とした寺。門前には佐賀の役で戦死者の慰霊碑があり、その悲哀が感じられる。

〔佐〕佐賀市大和町大字川上947

〔図〕☎0952-62-2652



車で約5分

江藤新平生誕地

地図▶P34 E-8

長崎街道から少し入った所にある生家跡。今では場所を示す案内板のみ。近所の龍雲寺は小さい頃の遊び場だった。

〔佐〕佐賀市八戸2-5-14付近

〔図〕



車で約5分

本行寺

地図▶P34 F-8

正門から入ると本堂手前の左側に江藤の墓がある。全国からの参拝客も多く、墓碑の副島種臣の字も見どころ。

〔佐〕佐賀市西田代1-4-6

〔図〕☎0952-24-1813



車で約25分

江藤新平乗船の地

地図▶P33 B-5

江藤が佐賀の役からの脱出の際に、船に乗った乗船の地。政府から追われる身になった江藤の心情が偲ばれる。

〔佐〕佐賀市西与賀町大字高太郎

2116付近

徒歩で約10分

はみだし情報
「あめがた」であったことが江藤のご子孫の鈴木鶴子さんの現地調査でわかった。江藤新平と明治維新(鈴木鶴子著 朝日新聞社)は江藤ファン必読の書だ。

相良知安

さ
が
ら
ち
あ
ん

捨て身の提案で大逆転。 我が国へのドイツ医学導入の功績者。

立身より医学発展にかけた人生

藩医相良柳庵の三男として佐賀城下八戸村に生まれる。相良家は代々佐賀藩医の家系で、世襲制が当たり前だった当時、彼も医者を目指す事になる。

16歳で藩校弘道館に入学、19歳で洋学を学ぶ蘭学寮に進み、21歳で創設されたばかりの医学校に入学。また、千葉の「佐倉順天堂塾」で医学を学び、長崎の「長崎養生所」ではオランダ人医師のボードインに師事。この時、その優秀さからオランダへの留学を勧められるも断っている。

33歳の頃に藩主鍋島直正の侍医として上京。明治になると、新生日本の医学校創設を任される。当時の明治政府内ではイギリス医学を日本の規範に決めていた。しかし相良は、長崎にて収集した異人たちの情報を基に、「ドイツ医学こそ世界最高水準」と明治の元勳たちの前でもひるまず堂々と主張。99%決まっていた当時の歳の頃に政府の方針を最終局面で覆した。

明治5年には第一大学区医学校(現東京大学医学部)の初代校長となり、さらに「医制略則」を起案。今日まで続く医学制度の基礎となっている。

しかしドイツ医学導入の件で一部藩閥の恨みを買ったせいか、後は重要なポストに就くこともなく、50歳の時には全ての官職を退く。

晩年は易者(占い師)として、長屋で不遇の時代を過ごし、71歳でひっそりとその生涯を閉じることとなる。

【概略年表】歳次略

1836	天保7年	1	2月16日、佐賀城下八戸村に三男として誕生
1851	嘉永4年	16	藩校弘道館に入学する
1854	安政元年	19	蘭学寮入寮
1861	文久元年	26	江戸及び下総(千葉県)の佐倉「順天堂塾」で蘭学を学ぶ
1863	文久3年	28	長崎にてボードインに学ぶ
1865	慶応元年	30	長崎養生所を精得館と改め、館長となる／致遠館に入校
1867	慶応3年	32	好生館教導方差次となる
1868	慶応4年	33	上京
1869	明治2年	34	新政府の医学校取調御用掛仰付けられ、ドイツ医学導入決定
1872	明治5年	37	東校を第一大学区医学校と改め、校長となる
1873	明治6年	38	文部省医務局長兼築造局長となる
1874	明治7年	39	相良の草稿を基にした「医制76ヶ条」を長与専斉が公布
1875	明治8年	40	本官を免ぜられる
1885	明治18年	50	7月、文部省御用掛仰付けられる／12月、非職仰付けられる
1900	明治33年	65	勳五等に叙せられ、雙光旭日章を授けられる
1906	明治39年	71	6月12日、死去



あなたにとって相良知安とは？

信じるものを守り 通した信念の人

直系子孫

相良 隆弘 さん



相良知安は私の5代前の先祖にあたります。頑固一徹で、周囲との協調性には欠けた部分もありますが、その性格が日本医学界の発展に大きく寄与したとも言えます。当時の日本はイギリス医学の導入が既に決まりかけていた頃。敵を作る事をいとわずドイツ医学の優秀性を説き、その導入にこぎ着けましたが、当の本人は失脚させられてしまいます。しかし自分の信じるものに決して妥協しなかった強い信念と潔さ、そして家族への愛情の深さには誇りを感じています。



相良知安を知る入門の一冊

「相良知安 一医と易一」

相良治安の生涯をまとめた一冊。周辺人物や当時の出来事などとの関係から、相良治安という偉人をひもとく。また、医者を辞め、易者として生きた余生についても再評価している。

羽場俊秀 著／佐賀新聞者刊／1,000円(税別)



▲長崎にてボードインと相良ら門下生。中央で腕組みしているのが相良(「相良知安」所載)



グズグズしてられない 世界まであと何年？

28歳の相良が長崎で医学を学んでいた時のこと。蘭医ボードインが「日本の医学は何年経てば、欧州諸国に追いつけるか」と生徒たちに質問。他の生徒たちが「100年かかる」「いや80年」などと答える中、相良だけは「14～5年後には追いつくでしょう。いや追いつかねばなりません」と熱弁。相良の医学にける情熱はこの頃既に燃えだぎっていた。



佐賀と東京、二人の妻 その二人が出会った時

相良は故郷佐賀に妻の多美と子供を残し上京し、以後37年間の東京生活。東京では定と言う女性と暮らしていた。いわゆる「権妻(ごんさい)」である。後年、相良が亡くなると、正妻タミは上京し、権妻の定と対面。正に修羅場…とはならず、定は天皇陛下より相良へ授けられたお金と遺骨を多美へ手渡し、多美は苦労しながら相良を支えた定の手を握り、いつまでも二人で涙したという。



▲正妻のタミ(相良隆弘氏蔵)



人は見かけによらない 貧乏長屋のあの人が?!

「医者」を捨て、易者として貧乏生活を続けていた相良に届いた吉報。近代医学制度創設に貢献した相良へ、勳五等双光旭日章が授与されたのだ。しかし貧乏で礼服も無い相良は、親友の石黒忠恵博士に代理を頼むことに。また亡くなった際には天皇陛下からの祭料が使者によって届けられた。同じ貧乏長屋の住人たちも、まさかそんなに偉い先生だったとは、さぞ驚いたことだろう。



▲相良に授けられた勳五等双光旭日章(相良隆弘氏蔵)



幼なじみで似た者同士 江藤と相良の数奇な運命

相良と江藤新平は同じ八戸村の出身で子供の頃、共に遊んだ竹馬の友だった。この二人は、一度決めたら突き進む突破力や相手を論破する時の容赦のなさなどが似ている。それぞれ医学と司法の面で国の基盤を作り上げる偉大な功績をあげるが、わずか数年で離職せざるを得なかったことも共通している。



相良が邁進したドイツ医学とは

相良がドイツ医学を推奨した理由として、当時日本に多かったオランダ医学書は大半がドイツ医学書の翻訳であったこと、当時ドイツ医学では基礎医学で破傷風菌、結核菌、淋菌など、世界的発見が相次ぎ発展していたこと、政府顧問だったフルベッキの勧めがあったこと、また日本とドイツは君主政体で新興国として国情・民族性に類似性があったことなどが挙げられる。我が国への導入以来、ドイツ医学を学んだ医学者の北里柴三郎博士、志賀潔博士、野口英世博士らが、細菌学や免疫学の基礎医学で世界的発見を成し遂げ、日本医学はわずか30年足らずで世界レベルに到達し発展した。ちなみに、カルテ、クランケ、オペ、メスなどの用語もドイツ語由来。



▲「主意」(相939)独医学導入に関する相良自筆覚書(佐賀県立図書館蔵 ※複製資料)



相良知安を知る!! 公式ホームページ

子孫である相良隆弘さんの手による、相良知安の情報をまとめたホームページが開設中！関連史料が見やすく整理され、その功績や生涯などが分かりやすく理解できる。



《<http://sagarachian.jp>》



《東京に見る相良知安の功績》

東大医学部に建つ記念碑

かつて校長を務めた東大医学部に建つ「相良知安先生記念碑」。長年人知れずひっそりと建っていたが、平成19年、附属病院玄関前の陽の当たる場所へ移転。改めてその功績が見直されている。

(注) 東京都文京区本郷7丁目3-1



▲建設当時の写真(相良隆弘氏蔵)



相良知安足跡探訪コース【約2時間】(移動約75分＋観光散策約45分)

モデルコース

相良が半生を過ごした佐賀での軌跡をたどる



相良知安生誕地

地図▶P34 E-8

長崎街道沿いて、現在はアパートの駐車場。小さい頃、江藤と一緒に遊んだ龍雲寺も近く、幼い二人はどんな姿だったのだろう。

(注) 佐賀市八戸1-4-19



弘道館跡

地図▶P34 G-8

相良や江藤と共に学んだ佐賀藩の藩校。明治政府で活躍した多くの偉人を輩出し、近代日本成立に大きな役割を果たした。

(注) 佐賀市松原2-5-22(徴古館横)

徴古館

☎0952-23-4200



佐賀県立図書館

地図▶P34 G-8

相良直筆の「医制略則」等、関連資料や文書などを多数保存。事前連絡すれば閲覧も可能で、本の持つ息吹を感じられる。

(注) 佐賀市城内2-1-41

開 9:00～20:00

休 毎月最終水曜日、特別整理期間、年末年始

☎0952-24-2900



水ヶ江の屋敷跡

地図▶P34 H-8

結婚した相良が妻子と共に暮らしたのは、大隈生家の西隣。妻子を残し上京した相良がこの家に再び戻ることはなかった。

(注) 佐賀市水ヶ江2-11-8



城雲院

地図▶P34 G-7

佐賀銀行本店南の小路を東に入るとある。境内にひっそりと建つ相良の墓に手を合わせ、その熱い生涯に思いを馳せよう。

(注) 佐賀市唐人2-7-5

☎0952-26-7218



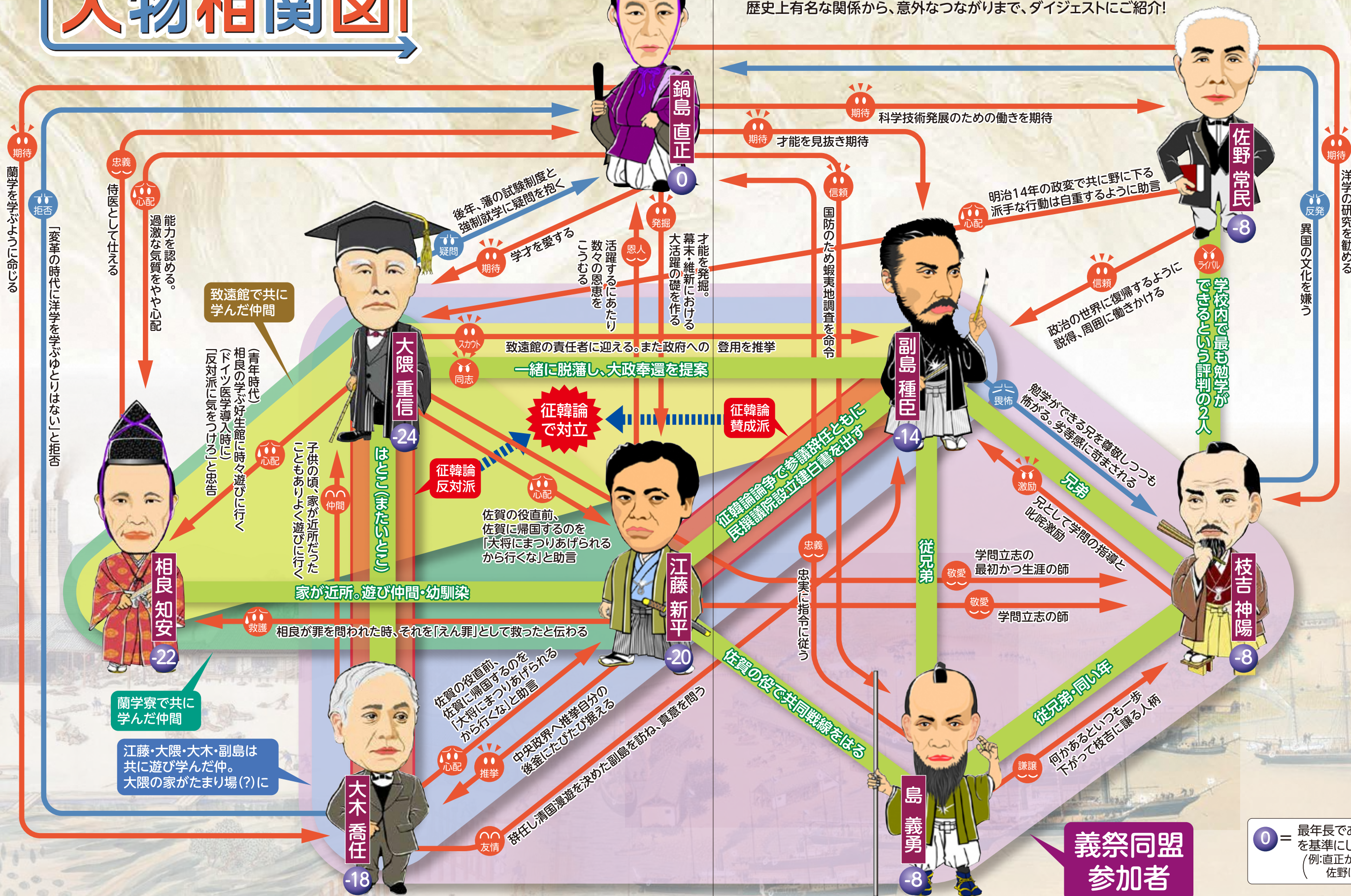
Sagara Chian

《人物像》

- 自分に妥協を許さぬストイックさ
- 自らの功名心より医学の発展
- 妻子への深い愛情

人物相關圖

佐賀藩から日本の中央政界に飛び立ち、近代国家の礎作りをした9人。
彼らは幼少時から青年期を経て、やがて日本を動かす重要人物になっても、
様々な局面で相互に助け合ったり、時には信念を貫き反発せざるを得なかった。
歴史上有名な関係から、意外なつながりまで、ダイジェストにご紹介!



0 = 最年長である鍋島直正
を基準にした年齢差
(例: 直正が30才の時、
佐野は-8で22歳)

